

# いこいのみぎわ 天路歷程 ジョン・バニヤン

## 第1話

2021年11月21日～11月27日 各家庭でのディボーション用テキスト

この世の荒野を歩いて行くと、私はふとある場所に出たが、そこには一つの洞穴【牢獄】があった。私は眠ろうとそこで横になった。眠るうちに一つの夢を見た。夢を見ると、見よ、ぼろを着た一人の男が、自分の家から顔をそむけ、手には一冊の書物を持ち、背には大きな荷を負って、とある場所に立っていた。【イザ64：6、ルカ14：33、詩38：4、ハバ2：2、使16：31】よく見ると、彼はその書物を開いて読むのが見えた。読むうちに彼は涙を流して身を震わせた。もう堪えられなくなり、悲しげな声で叫び出して言った、どうしたらよかろう。【彼の叫び 使2：37】



基督者嘆きの叫びをあげて逃げる

そこで彼はこんな哀れなさまで家に帰り、妻と子どもらにその悩みをさとられまいと、できるだけ長く自分を抑えていた。しかしその苦しみがつのつたために、長く黙っていることができなくなった。ついに彼は妻子に心をうちあけて、次のように語り始めた、愛する妻よ、いとしい子どもたちよ、お前たちの身内である私は、きつくのしかかる重荷のために、だめになってしまった。その上私がしかと聞いているところでは、この都は天からの火で焼かれ、その恐ろしい破滅では、救われる逃げ道が見つからない限り（それがまた私には分らんのだが）私自身が、妻よ、お前も、またお前たちかわいい子どもたちも、共にみじめな最後をとげるということだ。これを聞いて家族の者はひどく驚きあきれたが、それは彼の話をもとに信じたからではなく、彼が逆上して頭が狂ったものと思っただからである。そこで、夜も近いし、それにまた眠れば頭が落ちつくであろうと思ったので、大急ぎで彼を寝かした。しかし彼にとっては夜も昼と同じように悩ましく、眠るどころか、ため息と涙のうちに一夜を過ごした。そこで朝になったとき、気分はどうかと尋ねた。ますます悪い、と彼は答えて、またもや話しかけたが、彼らは心がかたくなにたってきた。彼らはまた手きびしいつつけんどんな態度で彼の病気を追い払おうと思って、ある時はあざ笑い、ある時はしかり、ある時はまったく無視した。それで、彼らのために祈り、彼らを憐れみ、またみずから不幸を慰めるため、自分の部屋に引きこもるようになった。また時には読み、時には祈りつつ、ひとりさびしく

野原を散歩した。数日間はこのようにして時を過ごしたのである。

さて、いつか、彼が野を歩いている時、例のようにその書物を読みながら、心にいたく悩んでいるのが見えた。読みながら、彼は以前したように、叫び出して言った、救われるために私はどうしたらよいであろう。

また彼が駆け出そうとでもするように、左右を見まわすのが見えた。しかしやはり彼は立っていた。それはどの方向に行くべきか分からないためであることが私に分かった。その時見ると、伝道者という名の人が彼のところへやって来て、何のためにあなたは叫ぶのかと尋ねるのが見えた。彼は答えて言った、私は死んで【ヘブ 9：27】その後でさばきにいたる運命をうけていることが、手に持っている書物で分かりました。私は死ぬ【ヨブ 16：21、22】ことも好みませんが、さばきに行くこともできません。【エゼ 22：14】

そこで伝道者は言った、この世はこのように多くのわざわいを伴っているのに、なぜ死ぬことを好まないのですか。この人は答えて言った、それは私が背負っているこの重荷が私を墓よりも下に沈めて、トペテ【地獄のこと イザ 30：33】におとしはしないかと恐れるのです。そしてもし私が牢獄に行く用意ができていないとすれば、さばきに行って、そこからさらに処刑に行く用意はなおさらできていないわけです。かような事を考えると泣けてくるのです。

そこで伝道者が言った、それがあなたの身の上なら、なぜじっと立っているのですか。彼は答えた、どちらに行ってもよいか分からぬからです。すると伝道者は彼に羊皮紙の巻物を与えた。その中には来たるべき怒りよりのがれよ【マタ 3：7】、と書いてあった。

それ故、その男は読んでひどく心配そうに、伝道者を見つめて言った、私はどこへ逃れるべきでしょうか。すると伝道者はいかにも広々とした野原を指で示しながら言うのに、向こうのくぐり門【マタ 7：13、14】が見えますか。男は言った、いいえ。それから相手が言った、向こうの輝く光【詩 119：105、Ⅱペテ 1：19】が見えますか。「見えるように思います」と彼は言った。そこで伝道者は言った、あの光から目を離さないで、まっすぐにそこへ登って行きなさい。そうすればその門が見えるでしょう。そこで門を叩けば、どうすればよいか聞けるでしょう。

こうして私は夢で見ていると、その男は走りだした。さて、彼が自分の家から駆けだして遠くも行かぬうちに、妻と子どもたちがそれに感づいて、後からもどるようにと呼ばわった。ところがその男は指を耳に入れて【ルカ 14：26】、命、命、とこしえの命と呼びながら走りつづけた。こうして後を見もしないで【創 19：17】平原の真中に向かって逃れ去った。

【ジョン・バニヤン 天路歷程 正篇 より】

※この本は図書に置かれています。さらに読みたい方はどうぞご利用下さい。